平成３０年度

事業計画書

平成３０年４月１日より平成３１年３月３１日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

平成３０年度事業計画策定にあたって

1981 年（昭和 56 年）の国際障害者年を契機に翌年 8 月に設立された当基金も、設立より 36 年目を迎えます。

設立当時より、永年の月日を経てきた今も当基金が目指してきたことは、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう「共生社会」の実現であり、様々な視点で障害のある人たちへの課題を考える機会をつくることを目的とした事業への取り組みを、引き続き展開していきたいと考えております。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、開催してまいりました。

「ふれあいのスポーツ広場」は、自動車総連、各地方協議会のご協力をいただきながら、開催しております。平成 29 年度は全国41会場での開催を目指しましたが、台風のため 1 会場が中止となり、40 会場において実施いたしました。

日本福祉大学教授の藤田紀昭先生が監修するプログラムも、障害の有無にかかわらず楽しむことのできる競技を目指して、大学生のみなさまにお力をお借りしながら、新たな競技の開発にも力を注いでおります。今年度から、新たに西九州大学の障害者スポーツに関わる学生さんたちにも協力の輪に加わっていただく予定です。

今年度は、全都道府県 47 会場の開催を目指して参ります。また、プログラムの一部見直しやPR活動も進め開催してまいります。

「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ」は、平成 29 年度には、平成28年4月の熊本地震の被災県である、熊本県内の障害者団体の大会や障害者施設での取組をいたしました。今までとは違う、大きな舞台での実施もあり、新たな切り口を模索いたしました。

今年度には、宮城県女川町と柴田町を中心に開催を計画し、言葉を超えたコミュニケーションの手法を知っていただけるよう、努力して参ります。

ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップは、東日本大震災の被災県である、福島、宮城での開催を積み重ね、障害の有無に関わらず楽しむことのできるユニバーサルなスポーツ競技の開発のため、日本福祉大学教授、藤田紀昭先生の監修の元、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. 日本福祉大学のみなさんに検討いただきました。今年度については、愛知県において実施し、連携の輪を広げて参ります。

昨今の低金利につき、年々基本財産の運用が厳しい状況となり、法人の運営について困難な状況が増しております。賛助会員や寄付者の募集活動について積極的に取り組むため、ニュースレターおよびホームページの内容についても吟味をして参ります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと本年度事業が展開できますよう、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成 30 年4月
公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

１．ふれあいの広場事業

（１）ふれあいのスポーツ広場の実施

障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造し、実施しております。

現在、日本福祉大学教授の藤田紀昭先生を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、公益社団法人日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。また新たに西九州大学の障害者スポーツに関わる学生さんたちにも協力の輪に加わっていただく予定です。

多くの関係者、ボランティアの皆様に支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期 平成３０年４月～平成３１年３月
開催地域 全都道府県において１会場を予定
開 催 数 全国４７会場（予定）
共　　催 全日本自動車産業労働組合総連合会
後　　援 内閣府、スポーツ庁、開催都市、開催都市教育委員会等
協力団体 公益社団法人日本エアロビック連盟
日本障害者フライングディスク連盟
日本福祉大学 Echos
仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.
西九州大学

プログラム内容

日本福祉大学教授　藤田紀昭先生の監修の元、障害の有無に関わらず、誰もが共に参加し楽しむことのできる競技として、開発された競技を中心に実施しています。午後には、エアロビック、フライングディスクなど、ユニバーサルな競技活動を行っている障害のある方に関わるスポーツ団体や、日本福祉大学、仙台大学の学生のみなさんが、それぞれに考案したユニバーサルな競技を実施し、楽しんでいただいております。

ジャンボールリレー／29 年度仙台大会

じゃんけんダンス／29 年度新潟大会

競技内容（例）

☆ロープ送り

２列縦隊で座った列の先頭から、最後尾に向かってロープを送っていき､最後尾でUターンして最前列へ。ロープの最後が最前列の競技者にわたったら、ばちと交換。太鼓を打ち鳴らす競技。

ロープ送り／29 年度京都大会

☆風船バレー

２チームに分かれ人の列で区切りを作る「人間ネット」を中心線とします。各チーム３０～５０個の風船を持ちスタート。自陣から風船の個数を減らしたチームが勝ち。

ホールインワン／29 年度小城大会

☆ホールインワン

スタートの音楽の合図が鳴ったら、パラシュートを上下を繰り返す。

指導者の合図でパラシュートを右に回し、その後ボールを入れる。全員で協力してパ

ラシュートの中央の穴にボールを落とす。ボールを穴に落とした後、早く座った方が勝ち。

☆みんなでストレッチ

運動不足になりがちな施設職員、利用者を対象に、施設でも行えるよう、藤田先生が考案したストレッチ運動。

風船バレー／29 年度広島大会

☆じゃんけんダンス

リズミカルな音楽に乗せ、二人一組で行うダンス。最後には二重円をつくり、じゃんけんにて洗濯ばさみを取り合うゲームを行う。

☆ジャンボールリレー

大きな軽いボールを四人一組でネットを利用してリレー。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 CO-Act. 考案。

☆輪になって運ぼう

輪になって手をつないで、５人一組で大きな軽いボールを運ぶゲーム。仙台大学障害者スポーツサポート研究部 CO-Act. 考案。

輪になって運ぼう／29 年度水戸大会

（２）ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。

平成 29 年度には、平成28年4月の熊本地震の被災地である熊本県内において、障害者団体の大会や障害者施設を会場に、体験いただきました。

今年度は、宮城県女川町と柴田町を中心とした会場で、理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：平成３０年９月
対 象 者：障害のある方、教職員、ボランティア等
ファシリテーター：
庄﨑　隆志氏
（office 風の器主宰・俳優・演出家）

分科会「アイスブレイク」

ワークショップ「ハイタッチ」

ワークショップ「チェロマイム　「うみ」」

ワークショップ「汽車ごっこ」

プログラム一例（平成２９年度実施　熊本菊陽学園様）

時間	プログラム	写真
９：５５～	ワークショップ開始 田中理事長挨拶 アイスブレイク （拍手他）	
１０：０５～	ミラーリング他	
１０：２０～	汽車ごっこ	
１０：３０～	エアーなわとび	
１０：４０～ １０：４５～	男女の出会い お礼の挨拶 ワークショップ終了 【参加者合計１０５名】	

２．開発、普及及び育成事業

（１）ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップの実施

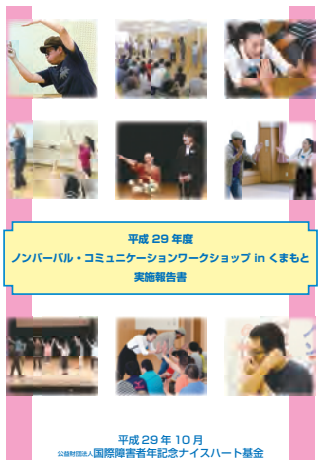
当基金が設立以来、実施を重ね開催規模を広げている「ナイスハート･ふれあいのスポーツ広場」事業では、多くの障害者スポーツに関わる指導者の助言や協力のもと、従来にない新たな競技を開発し、プログラムとして提供してまいりました。日本福祉大学スポーツ科学部教授である藤田紀昭先生が、学生のみなさんと協議を重ね開発してきたプログラムです。平成23年度からは、仙台大学障害者スポーツサポート研究部「Co-Act」のみなさんも競技開発に加わり、プログラムの内容も充実して参りました。

過去4年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として、東日本大震災の被災地である、福島県、宮城県内及び愛知県内で実施をして参りました。昨年度は、宮城県女川町内において実施し、障害のある子どもとそのご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたしました。今年度は日本福祉大学の皆様にご協力頂き、2回目となる愛知県内にて実施を致します。

実施時期：平成３１年１月の３日間
会　　場：日本福祉大学他
対 象 者：教育・福祉・体育の専門職員及びその学習をしている学生等
講　　師：藤田　紀昭氏（日本福祉大学スポーツ科学部教授）
　　佐藤　一樹氏（仙台大学障害者スポーツサポート研究部　Co-Act.）

（２）各事業報告書の発行

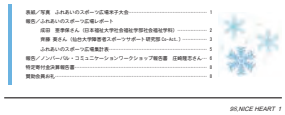
障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。



刊行時期：平成３１年３月
発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

（３）ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に努めてている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年４回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。



発行月：６月、９月、１２月、３月
発行数：各２，０００部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。
内　容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

３．調査研究事業

（１）ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座　　長：藤田　紀昭氏（日本福祉大学スポーツ科学部教授）
構 成 員：障害者スポーツ等の指導者、福祉関係者等
内　　容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできるスポーツプログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造
報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。